

# 中部環境計量士会だより

2011年7月20日発行

第9号

## 【主な項目】

### 1 2011年度総会報告

- 第1号議案 2010年度行事報告
  - 第2号議案 2010年度収支決算報告
  - 第3号議案 2011年度役員選出
  - 第4号議案 2011年度行事計画
  - 第5号議案 2011年度収支予算(案)
  - 第6号議案 愛知県、岐阜県及び三重県以外に在住又は勤務する環境計量士からの入会申込みについての取り扱い
- その他(報告事項)

### 2 会員欄

国立環境研究所 公開シンポジウム2011 参加報告 小林良二氏  
会員異動

### 3 掲示板

「いつか いっしょに笑おう 東日本」日本デンマーク ANJO AICHI  
平成23年3月11日 東日本大震災から3ヶ月 日本デンマーク安城市から  
(平成23年6月19日石原氏(会員)撮影)

### 1 2011年度総会報告

中部環境計量士会の総会及び講演会が平成23年5月28日(土)午後2時から大同特殊鋼(株)健保会館で開催され、23名の会員の出席(別に委任状提出者は31名)の下で開催され、6議案が可決されました。以下にそれらの内容を紹介します。

## 第1号議案 2010年度行事報告

(2010年度実施した主な事業)

- (1) 総会 2010年5月29日(土) 大同特殊鋼(株)健保会館
- (2) 講演会 総会終了後、同会館にて開催  
演題：「ファインセラミックス材料の化学分析技術の開発と標準化」  
(独)産業技術総合研究所 上菘 義則 氏
- (3) 見学会・研修会(懇親会)2009年9月18日(土)  
見学会 犬山木曾川鵜飼及び遊覧船上から名古屋市上水道取水口見学  
研修会 犬山国際センターにて(株)共立理化学研究所 宮川正孝 氏、石井誠治 氏  
を講師に「パックテスト」による水質分析研修  
研修会終了後、懇親会を開催
- (4) 講演会・勉強会(懇親会)2011年1月22日(土)大同特殊鋼(株)健保会館  
講演会  
「新たなPCB測定法の紹介」  
アイシン精機(株)新規事業企画室 初山政慶 氏、伊藤俊輔 氏  
勉強会  
テーマ1 「レアアース」  
話題提供者：大井民男 氏(会員)  
テーマ2 「COP10関連イベントでのSOYLUTION普及活動」  
話題提供者：大野良文 氏(会員)  
テーマ3 「環境ホルモンの最近の研究」  
話題提供者：杉浦世紀子 氏(会員)  
テーマ4 「地下水からのシアン検出原因の検証」  
話題提供者：阪野二郎 氏(会員)  
勉強会終了後、同会館にて懇親会を開催
- (5) 「中部環境計量士会だより」の発行(2回)  
第7号 (2010年7月20日発行)  
第8号 (2010年11月10日発行)  
(会員あてにメールで送付するとともに、会のホームページに掲載)
- (6) 会誌「緑野」の発行  
COP10協賛臨時増刊号 (2010年10月発行)  
第49号 (2011年3月25日発行)  
(印刷製本して会員と会員の所属組織及び公共関係機関・団体に配布)
- (7) COP10協賛事業  
上記会誌「緑野COP10協賛臨時増刊号」を発行し、「平成22年度第18回  
日環協・環境セミナーin Nagoya」研究発表会(ウイंक愛知)会場において発表

会参加者、分析機器展示者及び関係団体に配布。

## 2号議案 2010年度(平成22年度)収支決算報告

### 平成22年度 収支決算報告書

自 平成22年 4月 1日

至 平成23年 3月31日

単位:円

#### 1. 収入の部

科目	予算	決算	増減	備考
会費	344,000	284,000	-52,000	会費71名
その他の収入	0	1,280	1,280	利息、見学会等残金寄付
前年度繰越	315,195	315,195	29,684	
合計	659,195	600,475	-21,036	

#### 2. 支出の部

科目	予算	決算	増減	備考
総会費	30,000	9,710	-20,290	
役員会費	30,000	15,850	-14,150	
印刷費	220,000	373,427	153,427	緑野臨時250冊、49号230冊
通信費	50,000	16,040	-33,960	
勉強会費	100,000	61,452	-38,548	
事務局委託費	20,000	20,000	0	
ホームページ管理費	20,000	10,710	-9,290	インターネット関係等
HPリニューアル積立費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	19,435	-30,565	文具、緑野原稿料
予備費	89,195	0	-89,195	
次年度繰越	0	23,851	23,851	
合計	659,195	600,475	-58,720	

(会計監事から適正執行の報告がなされています。)

## 3号議案 2011年度役員選出

会長：阪野二郎(新任)

副会長：佐野教信

幹事：石川 創、石原好実、大井民男、黒木清篤、田中義身、新谷良英、則竹昌幸、  
船坂鎌三、鈴木 全(新任)、山田寛人、由利富士雄、吉田信夫

会計：近藤浩子、杉浦世紀子

会計監事：小林良二

の各氏

## 4号議案 2011年度行事計画

(実施する予定の主な事業)

(1) 見学会の開催

(2) 勉強会及び懇親会の開催

(3) 会誌等の発行

- ・「中部環境計量士会だより」年2回
- ・会誌「緑野」年1回

(4) その他

会員名簿発行年度になるが、前年度に開催した講演会での講師謝礼や COP10 協賛事業の支出が高んだため、今回は発行を取りやめる。その代わり、その後の修正表を作成するとともに、新規入会者には既発行の2009～2010年度版を配布する。

5号議案 2011年度(平成23年度)収支予算

平成23年度 収支予算書(案)

自 平成23年 4月 1日

至 平成24年 3月 31日

単位:円

1. 収入の部

科目	H22年度予算	H23年度予算	増減	備考
会費	336,000	320,000	4,000	4000円×80名
その他の収入	0	0	0	
前年度繰越	285,511	23,851	-261,660	
合計	621,511	343,851	-21,036	

2. 支出の部

科目	H22年度予算	H23年度予算	増減	備考
総会費	30,000	10,000	-20,000	
役員会費	30,000	15,000	-15,000	
印刷費	220,000	140,000	-80,000	緑野200冊印刷
通信費	50,000	20,000	-30,000	メールの活用
勉強会費	100,000	40,000	-60,000	
事務局委託費	20,000	20,000	0	
ホームページ管理費	20,000	20,000	0	
HPリニューアル積立費	50,000	0	-50,000	
雑費	50,000	40,000	-10,000	東日本震災義援金34,000円
予備費	51,511	38,851	-12,660	
次年度繰越	0	0	0	
合計	621,511	343,851	-277,660	

6号議案 愛知県、岐阜県及び三重県以外に在住又は勤務する環境計量士からの入会申込みについての取り扱い

神奈川県在住の環境計量士から入会の希望があり、現在の会則(たより第1号をご覧ください。)で入会するためには、会則第5条(特別会員)を適用すべきかどうかを諮った。

意見として、東海三県という区域の限定をなくして広く会員を募る 会の名称も中部に限定する必要はないと思われるので、必要なら改称してもよい 普通会員と

特別会員との間に差がないなら、特別会員として区別する必要はない(特別会員というイメージがよくないため。) などがあった。

このような入会申し込みについては、今年度は会則により特別会員扱いとなるが、どのような形がよいか再検討することとした。

## その他 (報告事項)

- ・ 東日本大震災義援金の拠出について

2011年4月23日に開催された役員会において提案のあった義援金拠出について、全役員一致の賛同を得て中日新聞社社会事業団に中部環境計量士会として5月1日に30,000円を寄附させていただいた。(なお、中部環境計量士会内規では「災害義援金については、会長の判断により寄附することができる」としている。)

また、本年3月末をもって退会された粟生雅人氏から2011年度分納入会費は義援金としてほしいとの要望があり、払い込まれた4,000円も追加寄附させていただいた。

- ・ 3年間連続会費未納者の扱いについて

会則第6条第4項では、「会費を3年間連続して納入しない会員は、その翌年度から退会したものとみなす。」と定めているが、会員への復帰希望者に対し未納会費の一括納付がネックになるという指摘を受けて、昨年度及び今年度分の直近2年分の会費(8,000円)を納入すれば会員資格を再獲得できるという特例を設けてはどうか、との要望があった。

この要望に対し、会費を納めている会員との差別化が必要である(会費未納者には「緑野」を配付していない) 来年度も同様な事態にどう対処するか(来年度は該当者がいないので今年度限りである) 納入のための督促が十分でなかったとの意見が出されたが、要望どおり承認された。

- ・ HPへのリンク依頼について

中部環境計量士会ホームページとの相互リンクの依頼があった。依頼者は環境計量とは無関係な事業者であるようであり、また事業内容も今ひとつ不明であるため、HP担当と相談し、お断りすることとした。その後、依頼者から連絡は届いていない。

サイト名： 太陽光発電価格

サイト URL： <http://taiyoukouhatuden.lews-castle.com/>

## 2 会員欄

### 国立環境研究所 公開シンポジウム2011 参加報告

小林 良二

6月25日 京都 で参加しましたので報告します。

## 第一部 緊急報告：大震災後の復旧復興に向けた取組

### 報告1 「国立環境研究所の取組」(大迫政浩)

3 / 29 「復興貢献本部」を設置、災害廃棄物対策、地元の環境研究所との協働、適時適切な情報提供を実施。具体的行動は 災害廃棄物に関する知のネットワークづくりと調査研究による知見の提供 被災地における大気粉塵等の緊急的調査 つくば市環境大気中の放射性物質の測定 環境関連の震災情報の検索サービス。

### 報告2 「災害廃棄物処理の現状と今後」(滝上秀孝)

具体的に取り組んだ例 塩分の高い木材等の廃棄物を焼却する場合に、塩素に由来する塩化水素、ダイオキシン類の発生はどのようであるか、また、排ガスの処理工程においてきちんと処理できるかという検証が重要であり、基礎的な試験を所内の燃焼プラントを活用して実施中。例 津波の浸水被災地域に広範囲にわたって堆積し、撤去中の堆積物を広く採取し、その化学的な性状を分析により把握。分析の結果は土地利用、立地産業の位置、業種、取り扱っている化学物質の情報と組み合わせ、相互の関連性を考察。今後の処理対策の基礎資料とする。

### 報告3 「被災後の生活排水処理とその課題」(蝦江美孝)

“生活排水処理施設の被災時における問題” “生活排水処理施設の被災状況と対応”

“今後の生活排水処理施設の復旧・復興” についての、調査報告と提言。

### 報告4 「地域の環境力を活かす復旧まちづくりに向けて」(藤田 壮)

“緊急の復旧から持続的な復興へ” を目標に “地域の震災被害と環境資源の空間分析システム” の利用。地域の研究機関や自治体、企業と連携して環境資源分布や地域特性の空間情報データベースを構築して、被災した地域や都市の復興の課題を浮き彫りにすることに加えて、低炭素と資源循環を活力として還元する地域再生メカニズムを研究する。「環境地域型」の復興モデル地区事業を地域の特性に応じて設計することが出来る。

## 第二部 環境研究の最前線

### 講演1 「大気シミュレーションで解明する広域大気汚染の実態」(大原利真)

オゾン(オキシダント)と微小粒子状物質による大気汚染が、日本の広い範囲で発生している。オゾンは全国的に増加し、微小粒子状物質も環境基準を超える濃度レベルになっている。原因はアジアにおける大気汚染物質の増加と日本への越境汚染が証明されている。大気汚染のシミュレーションによると、西日本の春季におけるオゾンに対する中国の影響は10~20%程度、九州などで光化学スモッグ発生時には50%にまで達することがある。このように日本の大気圏が大陸からの影響を受けていると共に、未知の問題・課題も残されている。成層圏、ヨーロッパ、北米からの大陸間輸送等。なお「福島第一原発の事故によって放出された放射性物質」の広域的大気シミュレーションについても報告された。

### 講演2 「海洋酸性化 地球温暖化と同時に進行する二酸化炭素問題」(野尻幸宏)

海には炭酸カルシウムの殻や骨格を体の構造に利用する生物(石灰化生物)が多く生息している。大気中で増えた二酸化炭素が海水中の炭酸イオンを中和して濃度を減らし、炭酸水素イオン濃度を増やす。一方でカルシウムの濃度は変化しないので、炭酸カルシウムは生成しにくくなる。このような変化を「海水酸性化」と呼ぶようになったのは最近のことである。海水が酸性になるのではなく、二酸化炭素が増えることで酸・アルカリのバランスが酸性の方向にシフトすることを意味する。特に石灰化生物にとっては炭酸イオン濃度が下がって炭酸カルシウム形成が阻害されることが問題である。“海洋生物飼育実験のために海水二酸化炭素濃度を精密に調整する装置” による “飼育実験対象生物(サンゴ、ポリプ、エゾアワビ、ムラサキウニ)” のデータ説明あり。

講演3 「化学物質による健康影響を受けやすい性質とは? - 感受性に関わる原因について-」 (藤巻秀和)

化学物質に対する感受性の違いを生じる要因として、遺伝的背景、化学物質の濃度と暴露時期、性差、既疾患の有無などについて検討し、その影響メカニズムの解明を通して、そ

れを評価する手法を見つける研究を行っている。低濃度トルエン暴露と免疫機能に関する研究～マウス実験で主要組織適合遺伝子複合体は重要な役割を持ち、糸口を得ている。

低濃度化学物質地と神経成長因子に関する研究～記憶・学習機能に大切である海馬の状況より、アレルギーなどの既往症があることにより、より低い濃度でも脳領域での影響が助長される可能性がある。発達期における化学物質暴露の影響に関する研究～マウス等のげっ歯類では、ヒトと同様の働きをする免疫系が短期間で発達する。低濃度トルエンを発達期に暴露することによる免疫機能への影響について、マウスの妊娠後期から出生期の期間に暴露を行い、T細胞の分化にかかわる転写因子などの抑制が認められた。発達期を細分割して実施し、青年期相当に対しても高い感受性が明らかになった。ヒトではどのような疾患に繋がるのか、今後の解明が期待される。

#### ポスターセッション：

- 1．東日本大震災の関連情報
- 2．衛星「いぶき（GOSAT）」による温室効果ガスの観測
- 3．地球温暖化への適応と緩和に向けた将来環境予測
- 4．温暖化が進んだ時世界の人々は必要な時に必要な量の水を得られるか？
- 5．空を飛んでくる微粒子 東アジアの大気環境
- 6．大気汚染予測システムVENUSの開発と検証
- 7．北関東における夏季の高濃度微粒子汚染のメカニズム
- 8．森林土壌に留まるモノと動くモノ - アンチモンを指標に硝酸性窒素の累積負荷量を探る -
- 9．新しい環境問題グリーンタイド - 極端に増殖した浮遊アオサの堆積
- 10． 全国を対象とした水田除草剤の河川中濃度予測モデルの開発と検証
- 11． 貧酸素水塊：東京湾の底棲魚介類の生存と繁殖を妨げる“容疑者”
- 12． 廃棄物系バイオマス等の資源化技術を組み合わせて効率的なシステムを作る
- 13． ベトナムの都市部におけるごみ処理システムの実態
- 14． アジア低炭素社会への道筋を考える
- 15． 環境都市に向けた施策・技術システムの設計と評価 川崎・瀋陽の都市連携研究
- 16． 環境ナノ粒子の慢性吸入毒性試験
- 17． 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の概要
- 18． エコチル調査における環境暴露評価 化学物質などの暴露をどうやって調べるのか -

以上

#### 会員異動

（2011年3月以降に以下の方々が入退会されました。）

#### 《入会者》（1名）

木口健一 氏

#### 《退会者》（3名）

粟生雅人 氏、磯部利行 氏、兼田道男 氏

### 3 掲示板

#### 見学会について

今年度は見学先として、中部電力株式会社が恵那市に設置しているメガソーラーを予定しています。詳細が決まり次第メール等でご案内させていただきます。多数の参加をお待ちしています。

#### 会誌等への投稿について、

会誌「緑野」、「たより」への投稿やご意見・要望等をお寄せください。会員相互の連絡や意見交換にもご利用いただけます。

なお、投稿を採用させていただいた場合にはささやかではありますが謝礼をお出しすることとしております。